発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(78)5400番
平成17年7月1日発行
第363号
○右の題字は「徳富蘇峰さん」の額を写したものです。

津奈木

最盛期を迎えた葉たばこ収穫の丸山勝さん（倉谷）

たばこ生産者 収穫・乾燥

戦後六十年の歳月を経て、たばこ耕作の変遷を辿ってみるといろいろな思い出を持っておられる農家の方も少なくないと思います。

津奈木町のたばこ耕作も全盛期においては農家収入の相当なウエイトを占めていたことは事実だったと思います。たばこ消費の衰退と共に津奈木町の葉たばこ生産農家も二戸になってしまいました。

かつては花形作物であったたばこに変わって柑橘、野菜栽培と種々な作物に変わってきました。花形作物とまではいかないまでもそれなりに価格も安定して反収も計画が立つそうです。

しかし、安全な葉たばこを生産するには規格も厳しく大変な手間がかかるようです。

一言

季節はまさに早く変化し今年も紫陽花の花の美しい頃を迎えている。本町新川橋から眺める四季折々の風情を楽しみつ、こ、四～五年歩く機会に恵まれ色々な発見をしたように思う。

津奈木村時代に、生まれ育った私の思い出の中に、三号線添いに田園が広がりその向こうに新川の土手の桜の木がある畔道を通り、洗濯物を持って川へ洗濯へ行きかう女性、その後には子供達が嬉しそうに遊び乍らついて行く姿である。

新川の橋の上から眺める時、津奈木も良い所だなあーと感動する。雨上りの山間から見えるもやの動きも美しい。又、夕暮れ時の大きくて真っ赤な太陽、川面に映える月明りもすばらしい。橋の上からの新幹線つばめも、どこか都会の息吹を感じ弾みがつく。小中学生の通学風景も、目にするが挨拶を交わし喜々としている。きっと後々川の思い出が残ると思う。私も出会いと感動を大切に、余生を送りたいと願っている。

伊藤京子（浜崎）

子ども美術館(32)

（十六年度文化祭作品）

「動物の住んでいる楽しい町」
津奈木小5年　五島　愛架

「つり　尺アマゴをつりあげろ」
津奈木小4年　東　未希也

「むかしあそび」
平国小2年　新立　れん

平成十七年度 社会教育団体役員紹介

津奈木小学校PTA
会長　新立　晴敏
副会長　山本　久
〃　山崎　泉
〃　有本　智春
〃　村上　真理

赤崎小学校PTA
会長　林田　良治
副会長　吉野　芳美
〃　佐々木京子

平国小学校PTA
会長　村上　恭一
副会長　野崎　昭三
〃　新立さなえ

津奈木中学校PTA
会長　山田　豊隆
副会長　福田　清隆
〃　小野田　寿
〃　財部むつみ

PTA連絡協議会
会長　山田　豊隆
副会長　林田　良治
書記　新立さなえ
会計　小野田　寿
顧問　荒木由紀子
監査　村上　恭一
〃　吉野　芳美

老人クラブ連合会
会長　松原　保男
副会長　新立　和市
〃　津田　良子
〃　野崎　昭子
〃　永田　正人
監査　河村　敏彦
〃　金子　靖

津奈木校区婦人会
会長　石田ミサ子
副会長　塩山　順子
顧問　西川　京子

赤崎校区婦人会
会長　伊藤セイ子
副会長　吉野　芳子

平国校区婦人会
会長　福山　二子
副会長　村上真由美

津奈木町連合婦人会
会長　石田ミサ子
副会長　福山　二子
書記　塩山　順子
会計　伊藤セイ子

津奈木町青年団
団長　坂口　信行
副団長　坂口　誠
事務局長　中山　忠

全盲のピアニスト「北田康広」演奏会

五月晴れの二十九日（日曜日）コンサートがあり、町内外から遠くは熊本市、人吉市、芦北町等の観客が多くて町内の観客が少なく残念でした。

ピアノ演奏も素晴らしかったけど、バリトン歌手としての歌声にも魅了されました。演奏、声楽、その合い間のトークで、「音楽は裏切らない、努力すればする程すばらしい成果が上がる」と述べられ、五体満足な人頑張れと励まされたコンサートでした。

お知らせ

7月行事（予定）
19日(火)～8月5日(金)まで水泳教室、詳しくは後日各小学校を通じ申込みを受付けます。
21日(木)　午前9時開会　町内小学校童話発表会
28日(木)　午後6時半開演　神谷徹ストローミュージック

ジュース等飲む時に使用するストローで、様々な音や演奏をお楽しみ下さい。（つなぎ文化センター）

8月行事（予定）
3日(水)　芦北・水俣市童話発表大会（会場　つなぎ文化センター　県大会予選）
13日(土)・14日(日)　盆野球大会・15日(月)　競舟大会

編集後記

春から初夏にかけて、昼夜を問わず鳴く「時鳥」の甲高い「テッペンカケタカ」と鳴く声を聴いて淋しい気持ちがします。理由は「泣いて血を吐く時鳥」というイメージがあるからです。それも血が出るまで泣かないと一つの餌にありつけないと言う諺があるそうです。

時鳥の声を聴かなくなると本格的な夏到来の時季になります。皆様元気で頑張りましょう。

公民館長（区長）研修会開催される

公民館活動奨励補助金制度は平成六年度から始まりました。モデル公民館事業は平成十三年度に終了し、その後は補助金制度もなくなり自治公民館としても事業の継続、新規の事業と活性化していく中で、行事運営や資金不足などといった問題も生じています。

また、同様に既存の伝統行事等並びに新しい行事への活動を援助する意味で補助金制度を設け、地区の活性化を図り「住みたくなるまちづくり」をめざした町全体の活性化を目ざしていきます。

十六年度は、古中尾・川内・赤崎・小津奈木の四地区でした。各地区とも館報に紹介しました。

その後、「これからの公民館のありかた等について」芦北教育事務所社会教育指主事からスライドを活用して講話があり活動の指針を示唆して戴きました。

なお、今年度は三地区の助成が交付予定されています。

蓑田指導主事

友だちがたくさんできた合同修学旅行

津奈木小　岩本　亜樹

修学旅行一日目でガイドさんと仲良くなりました。

最初に被爆者の方のお話を聞きました。お話は現実にあったことと思えませんでした。次に、平和公園に行きました。写真で見るより、とても大きな像でした。原爆資料館では、時間の止まった時計や溶けてくっついたビンの他、たくさんの原爆の恐ろしさを物語るものを見ました。

二日目はバイオパークでたくさんの動物たちとふれあい、宇宙科学館では、無重力体験などしました。

町内の六年生と仲良しになり楽しい旅行でした。

修学旅行で学んだ事

赤崎小　上村　沙陽賀

私が修学旅行で一番に学んだ事は友達の大切さだ。

ホテルで津奈木小と平国小の人達と私達でUNOや、写真をとったり、テレビを見たり、すごく楽しい一夜を過ごす事ができて、夜がすごく長く感じた。

いつもは、少ない人数で話したり、遊んでいるから、友達がたくさんいると、いろんな課題がでて、話がすごくおもしろかった。その時友達っていいなと思った。

中学校に行っても、津奈木町のみんなと勉強や部活をして頑張りたい。

修学旅行で学んだこと

平国小　濱田江理

私は、この修学旅行でたくさんのことを学びました。

放射線の中にプルトニウムというのが含まれているのを、みわんさん（語りべ）の話を聞いて初めて知りました。そのプルトニウムは、二万四千四百年体内で生きることを聞きおどろきました。

そのほか、津小、赤小とも仲良くなれたり、命の大切さがわかりました。

読書感想文（平国小）

風の谷のナウシカを読んで

平国小三年　宮﨑　ごうし

ぼくの家に、もしもガンシップという飛行機があったら、ぼくはそれにのって空の上まで飛んでみたいです。そして、空の上でたたかってみたいです。そしてたたかって勝ってみたいです。勝ったらおかあさんにほめてもらいたいです。

それから、ガンシップにのって、空のパトロールをして、町の人たちを守りたいです。もし、てきがきたら勝ってみせたいです。

ぼくのゆめは、仕事をいっぱいしてお金をためて、ガンシップにのって世界いっしゅうをしたいです。外国の人に英語を教えてもらって、外国人に話しかけたいです。

また、ナウシカにあって友だちになって、ガンシップにのっていっしょに旅をして、ぼくの町につれていきたいです。そして、町の人たちとぼくの家のおかあさん、おとうさん、ばあちゃんに教えてあげて、家族にしたいです。

人間はすばらしいを読んで

平国小六年　新立　香奈

私は、この「人間はすばらしい」を読み、コウモリやウサギなどにも、人間とはちがうそれぞれの力を与えられているんだなあと感心しました。

スカンクには、くさいおならを出して相手を寄せつけない力があり、トカゲには、しっぽを自分でちぎりしっぽの方に相手を集中させるというトカゲだけの力を持っています。

人間は、特別に一人一人に力を与えられています。特技もそれぞれです。私たちにも力があり、何かの可能性があるのです。

私は、未来に向けて何事も頑張っていきたいと思っています。

どんな大人になっているのか、どんな友達がいるのか、どんな仕事をしているのか知りたいです。

これからは、友達やみんなと仲良くして、動物ともちろん仲良くして、「人間はすばらしい」ということをみんなに知ってもらいたいです。

ここに、こんな人が・・・・

共に歩んで六十年

諌山保澄さん(84)　チズエさん(78)（日添）

まもなく結婚六十年をお迎えになる諌山保澄さん、チズエさん御夫妻をお訪ねしました。

色とりどりの花に囲まれた御自宅は赤崎の住宅地を一望できる高台にあります。

鉢植えだけで約五百四十鉢、それに加えて地植えも相当数ありました。洋蘭の華麗さに心を奪われましたが軽石に植えてあるイワマツも目を引きました。珍らしい石が見つかった時知人が持って来てくれるそうです。

これだけ見事な花を咲かせるにはそれなりに御苦労があり、特に灌水は必要不可欠で夏場の乾燥期には朝夕二回かけておられます。

御主人は戦時中は近衛兵として皇居の警護にあたられ、現在の天皇陛下や宮様方のお声を間近に聞かれていたと懐しそうに語って下さいました。

PTA会長をかわきりに区長、町議、老友会長等を歴任され赤崎の生き字引きとして貢献されてきました。勿論奥様の存在なくしては出来なかった事で、奥様もお元気で現在でも御長男夫妻の農作業を手伝っておられます。お訪ねした時はデコポンの選別に行かれたとかでお留守でした。

御主人は散歩も日課の一つですが最近膝を悪くされ暫く休んでおられます。早く癒され奥様とご一緒になさるようお勧めします。

（篠原記）

若い頃のご夫妻

ご自慢のイワヒバ

随筆

第三の人生

河村　敏彦（上下門）

先日、あけぼの大学に出席した。「高齢者の生きがい」という題目である。生きがいは、人それぞれに異なるので具体例を人にすすめることは出来ない。ただ周囲から、いいお爺さんお婆さんと言われるようになって下さい、という結論だった。私のかねての思いと共鳴する。

近頃、何を読むにもよく辞書を引く様になった。「生き甲斐」は生きていることの喜びや幸福感とある。

大阪にいる孫が、田舎がいいのか春夏冬の休みの度にやって来る。宿題をつきあっている内、私の方も興味がでてきて、六年生までの算数の教科書を揃えて読み始めた。孫は三年生だが、割算でも教えるとなると仲々難しい。ふれあいの店に出される花や野菜の苗は見逃さないようにしている。剪定も面白いし、苅払機の扱いも相当なれてきた。網戸の張替の時期も近い。

しかし、地域社会で生活する者として、自分の事ばかりでいいのかという思いはある。此の頃、老人会の集いに参加し、多くのお元気な方々に触れその人間力を感じている。

しかし、高齢社会というのは、一面で、老人が元気だという事である。周囲でも仕事にスポーツにと生き生きと活動されている方が多い。

隠居という語を辞書で引くと「もと、世をさけて山野などに隠れ住むこと」とある。私の家のまわりは雑木が多く、切ってしまえという人もいるが、隠れ住むにはいい環境である。

一般に、定年後を第二の人生というが、更に十年を経て七十を超えると身体も気持も生活環境も一段と変化してくる様に感じる。そこで超高齢の人生を第三の人生と呼んでみた。脚立に立って剪定する時、重い物を運ぶ時、高い木を切る時、こんな事、後何年できるかなとつい思う。

短歌

本郷武雄選

つなぎ短歌会

吾子とつむ八女茶の緑すがすがし
八十八夜の今日のぬくもり
白浜美和子

クレマチス今年は多くの蕾つけ
大輪の白咲く日をまちぬ
西川　ムキ

病む夫を気遣いながら公園に
花を眺むる娘等も交えて
福田八重子

老すでに娘の管理下に入るらしき
命令形の言葉の多し
加来　道子

老の身に相応の間を草刈りて
菜の花盛る小道をかえる
寺本ツルヲ

福祉弁当に入れむと旬の竹の子を
夜のくりやの大釜に炊く
野田　浦子

肥後狂句

やりにくさ
隣の寄付の多かこつ
相合い傘
今じゃ車ですーいすい
達　生

やりにくさ
生まれた頃から知っとらす
相合い傘
まちっと寄らにゃぬるるばい
万　葉

やりにくさ
監視カメラが睨うどる
相合い傘
ぬしが相手じゃときめかん
宰　相

やりにくさ
あんたが居れば気になって
相合い傘
肩の濡れも愛のうち
神無月

やりにくさ
馴れない司会者おどおどし
相合い傘
肩のふれ合い想像し
寅之助

〔次回の笠〕
○やめられん　○慣れてきて
一笠一句を　八月八日(月)迄
津奈木町教育委員会　粟塚まで